

マタイ 13

# 唯一の父なる神に キリストを通して祈る

マタイ福音書6章9～15節

山上の説教⑥ 主の祈り

Shikaoichurch.com

# アウトライン

## 0. イントロダクション

主の祈りの背景

## I. 聖書から読み解く主の祈り

6:9~15

## II. まとめと適用

神への祈りの本質を覚えよう





# 0. イントロダクション

ガリラヤ湖



神との約束を破った罪により、  
神から断絶した人は、苦しみ、  
死に、永遠の滅びにいたる。

神は、人を救うため、  
**メシア(キリスト)**を送ると約束。  
聖書は、**メシア**の約束の書。

神が選ばれたアブラハムの子孫  
イスラエルに誕生する**メシア**が、  
犠牲を払い、人の罪を贖われる。

罪人である人間は、  
平和を造り出すことはできない。  
滅びに向かっていてだけで、  
誰も死を免れない。

死刑囚の身代わりになれる  
死刑囚などいない。

唯一の神から離れてしまった  
人間は、みな罪人。  
罪人を救える罪人はいない。



罪なき神の子、  
完全に人であり、完全に神で  
あるメシアだけが、神と人と  
をつなぐ架け橋となれる。

私の罪を贖われるため、  
人として十字架で死なれ、  
神の力で死を打ち破って  
復活されるために、

メシアの生涯は始まった。

# メシアによる宣教は開始された

## ■ マタイ福音書4:17

この時からイエスは宣教を開始し、

**「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」**

と言われた。

**イスラエルに生まれたメシアだけが、  
神との平和を地上にもたらされる**

# メシアの生涯

宣教 → 拒絶 → 弟子訓練 → 十字架へ



最後の晩餐

エルサレム入城

最後の弟子訓練

山上の変容

ペトロの信仰告白

五千人の食事

たとえ話

ベルゼブル論争

安息日(律法解釈)論争

メシア的奇跡

宣教開始

弟子の召命

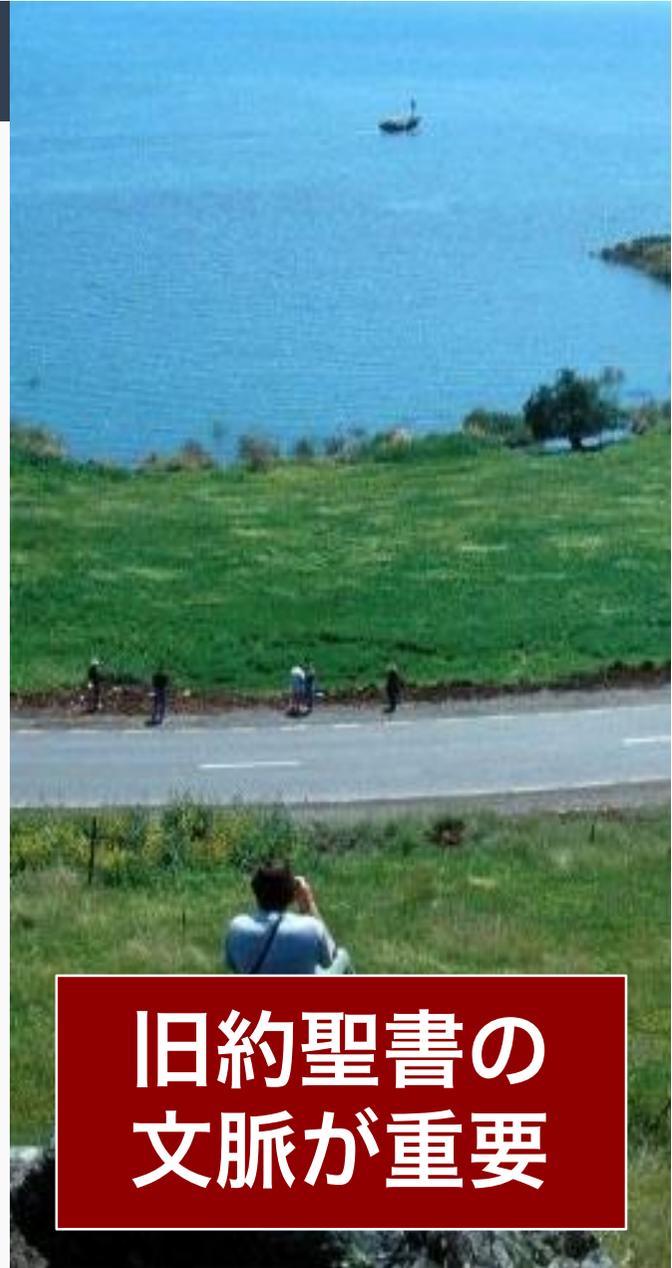
荒野の誘惑

バプテスマ



## 山上の説教とは？ マタイ5～7章

- ガリラヤ湖畔で語られた、イエスの**説教集**。  
→ 丘の上、もしくは湖面(ルカ6章)から
- パリサイ派の「**口伝律法**」の間違いを指摘。  
神の「**律法**」の真の意味と適用を教えられた。  
→ 十字架以前のこの時点は、**律法の時代**
- 「山上の説教(垂訓)」とは、  
→ メシアによる直々の**律法解釈!!**  
→ **イスラエル**に向けて語られた



旧約聖書の  
文脈が重要

# メシアがイスラエルに突きつけること

- 兄弟を罵る罪は、永遠の裁きに至る罪。
- 情欲の目を向ければ、姦淫同然の罪。
- 完全でなければ、誰も神の国には入れない。
- 神に、偽善は一切通用しない。

…etc

一体、神にどう祈ればいいのか？

## メシアによる「主の祈り」

### ■ マタイ福音書6:9～15

ですから、あなたがたはこう祈りなさい。

『天にいます私たちの父よ。

御名が聖なるものとされますように。

御国が来ますように。

みこころが天で行われるように、地でも行われますように。

私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。

私たちの負い目をお赦してください。

私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。

私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。』

# 「主の祈り」 文語訳(1880年)

てん われ  
天にまします我らの父よ。

ねがわくは御名をあげさせたまえ。

みくに  
御国を来たらせたまえ。

みこころの天てんになるごとく、地ちにもなさせたまえ。

われ にちよう かに きょう あた  
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

われ つみ  
我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、

われ つみ  
我らの罪をもゆるしたまえ。

われ  
我らをこころみにあわせず、悪あくより救すくい出だしたまえ。

くに ちから さか かぎ  
国と力と栄えとは、限りなく なんじのものなればなり。

アーメン。

## 「主の祈り」とは？

- イエス・キリストが、唯一、直接に教えられた祈り。
- 最後の頌栄部分を後の時代に付加して、祈禱文として整えられた。
- キリスト教のほとんどの教派で正当な祈禱文とされる。
- 最初の日本語訳は、1,592年。



**Ⅰ. 聖書から読み解く「主の祈り」**    マタイ6章9～15節

ガリラヤ湖畔

## 主の祈り 天の父へ マタイ6:9

ですから、あなたがたはこう祈りなさい。

『**①**天にいます私たちの父よ\*。**②**御名が聖なるものとされますように。』

**①**祈りは、**天の父なる神**に向かってささげる

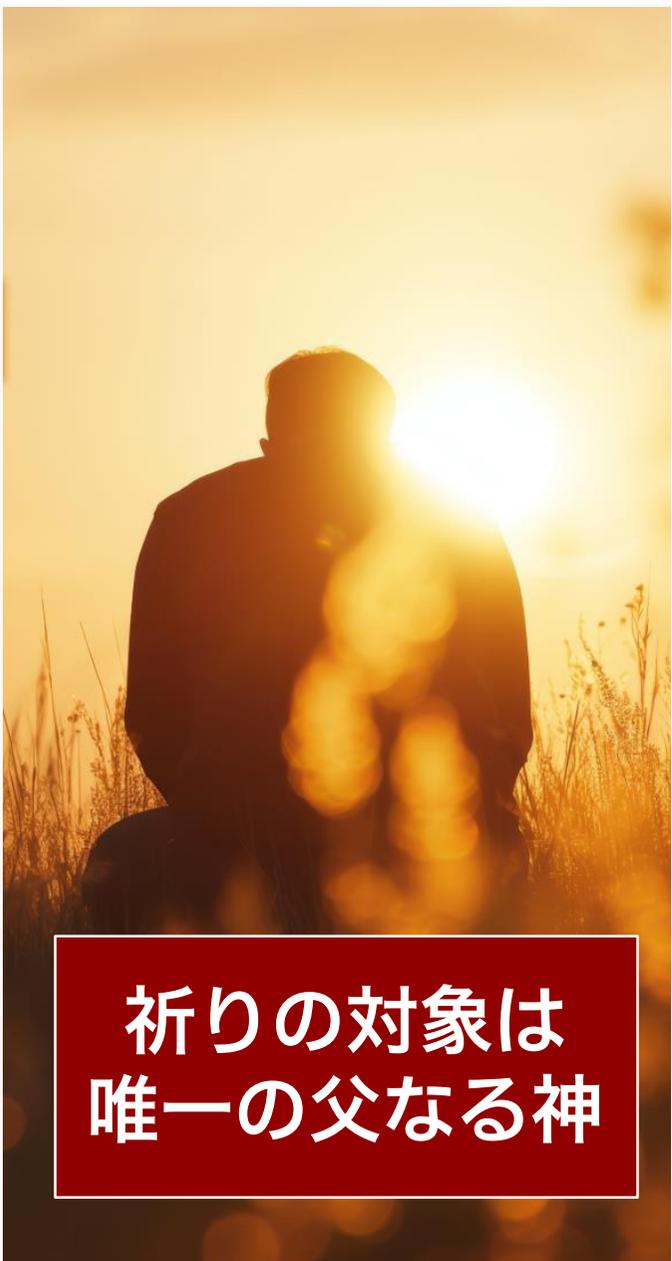
**②**“**聖**” = 完全にきよく、完全に分けられている

“神を聖と認める” = “神をおそれ、ひれ伏す”

「主の御名が、今聖なるものとされよ(アオ命)」

➔ 聖なる神に出会った者は、例外なく恐れる。

自分の罪を思い知らされ、滅びを痛感!!



祈りの対象は  
唯一の父なる神

## 主の祈り 主の御国・御心 マタイ6:10

③御国が来ますように。④みこころが天で行われるように、地でも行われますように。

③神の王国がただちに地上に建設されよ(アオ命)

④神の御心が地上でも即、完全に行われよ

■地上に神の王国が建設され、主の御心に完全に一致した統治が行われるのは、千年王国。

統治を行うのは、再臨の栄光の主イエス。

➔この時点では、イエスをメシアと認める

➔今の時点では、再臨のメシアを待ち望む



御国の実現が  
祈りの中心

## 主の祈り 日ごとの糧 マタイ6:11

⑤ 私たちの日ごとの\*糧\*を、今日もお与えください。

\*エピウーシオン …2回のみ(ルカ11:3)

“その日のために最低限必要な食料”

\*パン

■ 11節以下、地上のことの祈りの範囲は最小限

⑤ 「今日を生きるために必要な食べ物を、  
今、与えられよ。」

➔ 日々の必要を満たしてくださいという祈り



## 主の祈り 負い目を赦す マタイ6:12

⑥ 私たちの負い目\*をお赦してください。私たちも、  
私たちに負い目のある人たち\*を赦します。

\*オフェレイマ …2回のみ。

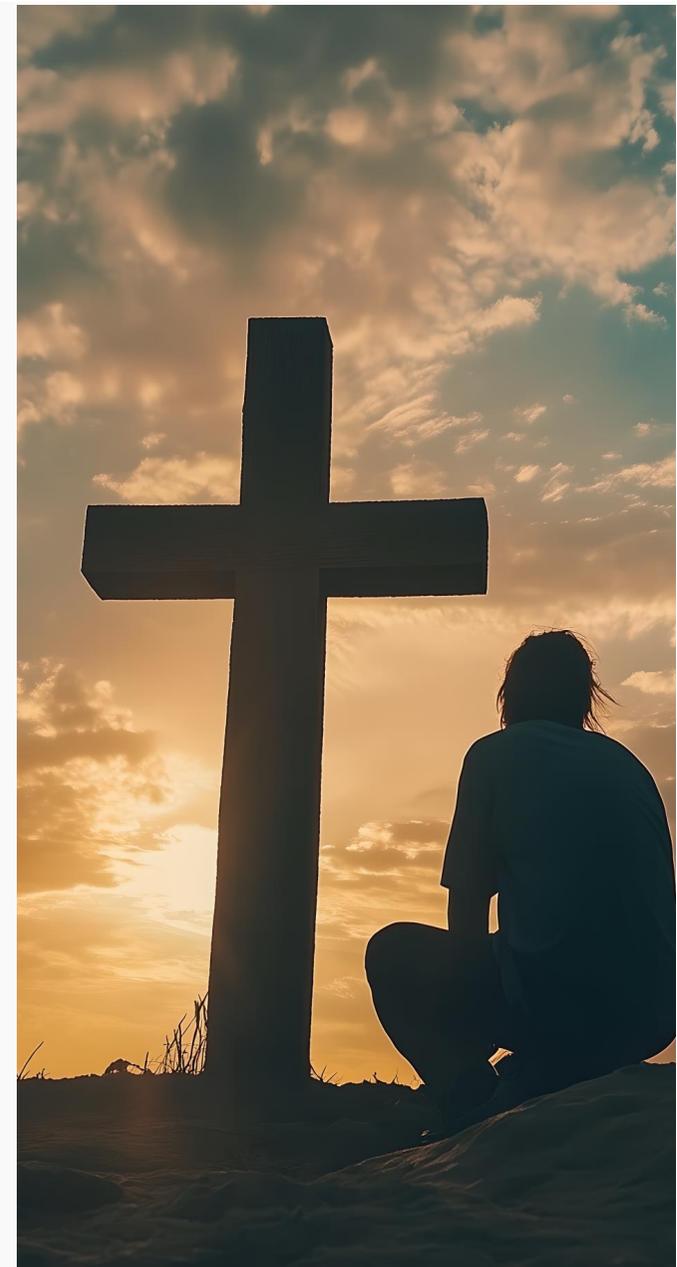
“支払うべき報酬(ロマ4:4)”

\*オフェレテス …“負債を抱えた人”

“罪の負債(ルカ13:4)” “義務がある人” “責任”

■ 罪(=負債)。返済不可能な人の罪の贖いは、  
唯一、メシアが十字架で成し遂げられる。

⑥ 「私たちの負い目を赦されよ」



## 主の祈り 試みにあわせず マタイ6:13

⑦ 私たちを試み\*にあわせないで\*、悪からお救いください。』

\*“試練、誘惑” \* “導き入れない。連れて行かない”

■ 直近で、弟子たちを待ち構える試練が!!

終末のイスラエルへの究極の試練が大艱難!!

“全世界に来ようとしている試練の時(黙3:10)”

■ 地上での個々人の試練は不可避(1ペ4:12)

→ 神の裁きという試練からの守りが祈られる。

⑦ 「滅びの裁きにあわせず、悪より救われよ」



ガリラヤ湖畔

## 垂訓 赦しの原則 マタイ6:14~15

もし人の過ちを赦す\*なら、あなたがたの天の父もあなたがたを赦してくださいます。

しかし、人を赦さないなら、あなたがたの父もあなたがたの過ちをお赦しになりません。

\*“アフエテ”…“離す、捨てる、去らせる”

■人が赦す →手放して、主に委ねること

■神が赦す →罪としない。裁かない。

■私の罪を負って十字架で死なれ、復活された主イエスだけに、真実に赦す権威がある。





## IV. まとめと適用

神への祈りの本質を覚えよう

ガリラヤ湖

## 「主の祈り」の前提を確認しておこう

■ イエスが語られた「主の祈り」の前提 マタイ福音書6:5～8

また、祈るとき偽善者たちのようであってははいけません。彼らは人々に見えるように、会堂や大通りの角に立って祈るのが好きだからです。まことに、あなたがたに言います。彼らはすでに自分の報いを受けているのです。

あなたが祈るときは、家の奥の自分の部屋に入りなさい。そして戸を閉めて、隠れたところにおられるあなたの父に祈りなさい。そうすれば、隠れたところで見られるあなたの父が、あなたに報いてくださいます。

また、祈るとき、異邦人のように、同じことばをただ繰り返してはいけません。彼らは、ことば数が多いことで聞かれると思っているのです。

ですから、彼らと同じようにしてはいけません。あなたがたの父は、あなたがたが求める前から、あなたがたに必要なものを知っておられるのです。

# 「主の祈り」の前提を確認しておこう

- ❶ 人の評価を求めて祈るのは、的外れ・偽善。
- ❷ 祈りは、第一に、神との個人的な人格的対話である。
- ❸ だから、呪文のように同じ言葉を繰り返しても無意味。
- ❹ 求める前から私たちの必要を知っておられる、全知全能の唯一の父なる神に対して祈る。  
→ 父なる**神への信頼**の上で祈る。**信仰**が大切!!

# 「主の祈り」は、いつ、どこで、誰に、語られた？

■ いつ？	今から2千年前。3年半のメシアの宣教の前半
■ どこで	ガリラヤ湖で
■ 誰が？	メシアであるイエスが
■ 誰に？	教えを聞きに来たイスラエルの人々に
■ なぜ？	正しい祈り方を教える必要があったので
■ どのように？	メシア自身が神に祈られることによって

## メシアによる「主の祈り」

神とのこと

- ① 天にいます私たちの父よ。
- ② 御名が聖なるものとされますように。
- ③ 御国が来ますように。
- ④ みこころが天で行われるように、地でも行われますように。

人とのこと

- ⑤ 私たちの日ごとの糧を、今日もお与えください。
- ⑥ 私たちの負い目をお赦してください。  
私たちも、私たちに負い目のある人たちを赦します。
- ⑦ 私たちを試みにあわせないで、悪からお救いください。

まず、**神とのこと**が祈られ、次に、**人とのこと**が祈られる → **順番が重要**

# モーセの「十戒」

神へのこと

1. 私は主、あなたの神、あなたを奴隷の家から導き出した者である。
2. あなたには、私をおいてほかに神々があってはならない。  
あなたは自分のために彫像を造ってはならない。
3. あなたは、あなたの神、主の名をみだりに唱えてはならない。
4. 安息日を覚えて、これを聖別しなさい。
5. あなたの父と母を敬いなさい。

人へのこと

6. 殺してはならない。
7. 姦淫してはならない。
8. 盗んではならない。
9. 隣人について偽りの証言をしてはならない。
10. 隣人の家を欲してはならない。

## 神に祈るために、必須の大切なこと

- ①** 神のことを知る。神のご計画をよく知る。  
→相手のことを知らないで対話はできない
- ②** 神は、私のことを私以上に、完全に知っておられる。  
→何一つ隠し事はできない  
すべてを知って、聞いてくださる神を信頼する
- ③** 何を願ってもよいが、  
第一に求めるべきは、神の御心がなされること!!  
→主の御心が第一。自分の願いは二の次

## 今の教会時代の私たちの祈りの原則

- 「主の祈り」を教えられた後、3年半の公生涯の最後、イエス・キリストは、私たちの罪をあがなうために、人として、**十字架**にかけられて**死なれ**、墓に**葬られ**、神としての力で、死を打ち破って栄光の体で**復活された**。
- キリストは、栄光の姿で天に昇られ、父なる神の右の権威の座について、大祭司として、私たちの祈りを父なる神にとりなしてくださっている。

## 今の教会時代の私たちの祈りの原則

① 祈りの宛先は、父なる神

② 祈りを届けてくださるのは、大祭司であるキリスト

■ 今の教会時代の祈りの原則

① 「父なる神」に、

② 「主イエス・キリスト」を通して、祈る。

■ 届け物で大事なものは、「正しい宛先」と「確かな配送者」

➔ これを間違えた祈りは、神には届かない!!

## 自由に祈るために必須のこと

- 世の中の「祈り」、様々な宗教の祈りは、紋切り型。  
例) 仏教、イスラム教、様々な新宗教、スピリチュアル  
→ 決まった言葉を繰り返す祈りが基本。間違ふ恐れ？
- キリスト者の祈りは自由。宛先と配送者さえ正しければ。  
父なる神にキリストを通して。あとは自由に祈ればいい。
- 間違いを心配しなくていい。私の罪をあがなわれた  
キリストが、最善の形で父なる神に届けてくださる。

## ★ 「主の祈り」の礎を覚えよう ★

■ 罪のために神と断絶し、死と滅びにいたるだけの人間。しかし神は人間を救うため、一方的に、愛するひとり子イエス・キリストを人として地上に送られた。

■ 完全に神であり、人である、主イエス・キリストは、私の罪の負債をあがなうために、十字架で死なれ、葬られ、死を打ち破って復活された。➡これが、福音。

■ 栄光の姿で天におられる主イエスが、大祭司。主イエスは、王の王として地上に永遠の御国を建てられ、ただ福音を信じて救われたすべての者を招かれる。

# 「主の祈り」 文語訳(1880年)

てん われ  
天にまします我らの父よ。

ねがわくは御名をあげさせたまえ。

みくに  
御国を来たらせたまえ。

みこころの天てんになるごとく、地ちにもなさせたまえ。

われ にちよう かに きょう あた  
我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

われ つみ  
我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、

われ つみ  
我らの罪をもゆるしたまえ。

われ  
我らをこころみにあわせず、悪あくより救すくい出だしたまえ。

くに ちから さか かぎ  
国と力と栄えとは、限りなく なんじのものなればなり。

アーメン。